

★学校教員像			★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）			1 体を育てる力の向上 2 豊かな人間性の育成 3 学ぶ力の定着 4 安全・安心			
めざす児童・生徒像 めざす学校像 めざす教師像			基本的な生活習慣を身に付け、健康に生活しようとする生徒、挨拶ができ、思いやりをもって皆と感動しようとする生徒、自ら学び、問題を解決しようとする生徒、郷土を愛する心をもつ生徒 屈託のない笑顔の見える学校 生徒の見本となる教員			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
育ち	体を育てる力の向上	運動する機会を増加させ、生徒の体を育てる力の育成を図る。	・部活動の充実や運動する機会の増加を図り、生徒の積極的な運動への取組みを推進し、体を育てる力の向上を図る。	4	4 体を育てる取組みや部活動によく取り組んだ教員が75%以上	2	4 保護者87.4%が取り組んだ生徒が90%以上	・取組指標が4なのは素晴らしいです。 ・「運動する機会の増加を図る」は具体的にどのような取組をしたのですか？ ・現在の子供たちはメディアの普及によって、じっとしている時間を多くとられて、体を動かすことが少なくなっています。体育の時間に楽しみながら体を動かせるゲームなど（レク）を毎回短時間でも取り入れると運動部との格差も気にせず楽しめ、充実感があるのではないのでしょうか。 ・外部指導員の活用など先生方の負担を減らしつつ部活動は活発に取り組み、それぞれの成果を上げ、個人の成功体験を増やしてほしい。 ・運動への取り組みは、部活動を通してしっかりと取り組んでいる。また、各種大会においても成績を収めており、日常接する中で挨拶も良くてきています。	部活動に参加して運動を頑張る生徒、体育の授業へ関心をもち、自分から取り組んだ生徒が多くいた。今年度はインフルエンザの流行で学校としての取り組みを行うことができなかったが、放課後に10分間走などを行い、運動部に入っていない生徒にも体力向上の機会を設けたい。
					3 体を育てる取組みや部活動によく取り組んだ教員が70%以上		3 運動を頑張った生徒が85%以上		
					2 職員79.3%が取り組んだ教員が65%以上		2 運動を頑張った生徒が80%以上		
					1 体を育てる取組みや部活動によく取り組んだ教員が65%未満		1 生徒80.5%が取り組んだ生徒が80%未満		
学び	学ぶ力の定着	校内研究による授業改善の推進を図る。	・定期テスト前及び学期末に教員面接を行い主体的・対話的で深い学びの授業実施に向けた指導力向上を図り、生徒が分かりやすい授業を実施する。 ・GIGAスクールの研究成果を踏まえ、引き続き授業中の調べ学習や対話的な学習などに	1	4 研修等を通して、授業力が高まり、分かりやすい授業が行えた教員が96%以上	1	4 授業の内容がよく分かった生徒が95%以上	・取組指標及び成果指標が1なので、課題を明らかにしていく必要があると思います。 ・教員面接の内容は、どのようなものですか？ ・先生方が指導力向上やタブレット等を活用する新しい形での授業の取り組みなど、日々変化する教育現場のため、ご尽力されていることがわかりました。これからもよろしく願います。 ・テスト前に教員面接があるのは素晴らしいと思いました。教員の指導力向上だけでなく、生徒たちにとっても、自分の課題を明確にしたり、モチベーションを上げたりするなどの良さがあると思います。 ・毎日の学習や生活の中で自分の「好き」を見つけてほしい。興味をもったもの、不思議に思ったことなど調べる手段はたくさんもっているはずだから、掘り下げて調べると「おもしろい」と思うことに会えるかも。 ・通常の授業は分かりませんが、生徒会活動等においてもタブレットを活用しているのを見受けま	生徒と信頼関係が昨年度よりも低いことが考えられる。学習評価に関する研修をしたが、教員が新たな学力に対応できていないためと思われる。テスト1週間前は食堂を開放し、多くの生徒が利用したが、日頃の利用は多くはない。単元テストの実施に伴い、放課後の自習教室の宣伝を強化し、さらに自主的に学習に取り組む態度の育成の充実を図る。
					3 研修等を通して、授業力が高まり、分かりやすい授業が行えた教員が93%以上		3 授業の内容がよく分かった生徒90%以上		
					2 研修等を通して、授業力が高まり、分かりやすい授業が行えた教員が90%以上		2 保護者77%が取り組んだ生徒が85%以上		
					1 研修等を通して、授業力が高まり、分かりやすい授業が行えた教員が90%未満		1 授業の内容がよく分かった生徒が85%未満		
学び	学ぶ力の定着	自学自習の放課後復習教室や図書室等での自学自習のできる環境を整え、学ぶ力の向上	・毎日の朝学習、期末テスト対策講座に加え、生徒が自学自習を進められるよう放課後に自学自習のできる環境を整え、自ら学習する校風を醸成する。	1	4 生徒の学習意欲を育み、自主的に取り組む生徒を増やせた教員が90%以上	2	4 自主的な学習に取り組む、学力が高まった生徒が85%以上	・部活動に参加している子はなかなか放課後学習は難しいと思いますが、毎日の朝学習は、常習化することや、小さなテストなどで反復や達成感を得ることで、自ら学習する意欲が湧くのではないかと思います。是非、続けてほしいです。 ・生徒が自分で学習をすすめることができる自主学習教室があるのはいいと思います。生徒の主体的な行動につながると思います。	自習教室を別室支援員や学生インターンに依頼し、放課後の4日間を当てることができた。テスト1週間前は食堂を開放し、多くの生徒が利用したが、日頃の利用は多くはない。単元テストの実施に伴い、放課後の自習教室の宣伝を強化し、さらに自主的に学習に取り組む雰囲気をつくっていく。
					3 生徒の学習意欲を育み、自主的に取り組む生徒を増やせた教員が85%以上		3 保護者78.3%が取り組んだ生徒が80%以上		
					2 生徒の学習意欲を育み、自主的に取り組む生徒を増やせた教員が80%以上		2 自主的な学習に取り組む、学力が高まった生徒が75%以上		
					1 生徒の学習意欲を育み、自主的に取り組む生徒を増やせた教員が80%未満		1 生徒76.4%が取り組んだ生徒が75%未満		
いのち	豊かな人間性の育成	運動会・合唱コンクール等の行事を充実し、所属感・連帯感を高める。	・生徒が協力して取り組み、感動する行事を実施し、所属感・連帯感を高める。	1	4 運動会・合唱コン等の行事で生徒の所属感・連帯感を高めた教員が95%以上	2	4 運動会・合唱コン等の行事に参加し所属感・連帯感が高まった生徒が96%以上	・運動会・合唱コンクール等の行事を生徒に協力して取り組ませ、充実を図りたいですね。 ・左記の記述を具現化するために、前年度と比較して新たに取り組んだことは何ですか？ ・人と協力して大きなことを成し遂げられる貴重なチャンスですが、思春期なので素直に参加できない子も多いと思います。でも、先生の熱量は伝わると思うので、先生方が子どもを置いていかない程度で熱く引っ張ってほしいです。（削減が難しいと思いますが…） ・体育祭を見ていて、中学生は自主的に取り組みができていていると思い、頼もしく感じました。連帯感もあり良かったです。 ・合唱コンは見れませんでした。運動会は生徒自ら動き、クラスはもとより学校全体の団結が感じられました。	今年度の運動会は、観客の人数制限をなくし公開することができた。運動会を短時間で開催するため種目を精選したことで、生徒同士が協力して取り組む活動を増やした。合唱コンは3月に延期のため、この結果には反映されていないが、実施することでさらに成果指標が上がると思われる。
					3 運動会・合唱コン等の行事で生徒の所属感・連帯感を高めた教員が90%以上		3 保護者91.1%が取り組んだ生徒が93%以上		
					2 運動会・合唱コン等の行事で生徒の所属感・連帯感を高めた教員が85%以上		2 運動会・合唱コン等の行事に参加し所属感・連帯感が高まった生徒が90%以上		
					1 運動会・合唱コン等の行事で生徒の所属感・連帯感を高めた教員が85%未満		1 生徒91.8%が取り組んだ生徒が90%未満		
いのち	豊かな人間性の育成	地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る。	・職業調べや報告会などにおいて、地域の方との意見交換を行い、望ましい社会性や勤労観・職業観を育む。 ・保護者と教員の交流の推進を行うとともに、ボランティア活動を推進し地域の	1	4 保護者や地域の方などとの交流を進め、生徒の成長につなげた教員が90%以上	1	4 地域の方と交流を行い、自分の成長につながった生徒が95%以上	・取組指標及び成果指標が1なので、課題を明らかにしていく必要があると思います。 地域と連携を深めたいですね。 ・「保護者と教員の交流」とは、具体的にどのような活動ですか？ ・ボランティアを積極的に子ども達に参加させて、地域の中で感謝される体験を増やしてほしいです。自分の必要性やボランティア精神が更に増すのではないかと思います。 ・ボランティア精神というのは子供のときから身近な大人の活動を見たり、参加したりして達成感や喜んでくれる人の笑顔が嬉しかったりするものなので、地域のボランティア活動にどんどん参加してほしい。 ・保護司会活動や育成会活動、さらには自治会のイベントにも参加してくれ、地域に溶け込む様子も見られました。特に社明活動では、駅頭での広報物配布をしてくれ、更生保護にもかわっていただきました。 ・育成会行事である「たすきりレー」や「小中交流会」で、中学生のボランティア活動や運営に関わってもらったことで、地域と触れ合いもできたのは良かったと思います。一中生の活躍は素晴らしいと思います。	地域の人材を活用し、職場体験、職場訪問などを行うことができた。交流をする機会が少なかったと感じている生徒も多くいることから、職場体験の報告会に保護者や地域の方に参加してもらうことや、青年会議所と連携し様々な職業についての話をいただくなど、地域との交流を深める機会を設定していく。
					3 保護者や地域の方などとの交流を進め、生徒の成長につなげた教員が85%以上		3 保護者69.1%が取り組んだ生徒が70%以上		
					2 保護者や地域の方などとの交流を進め、生徒の成長につなげた教員が80%以上		2 地域の方と交流を行い、自分の成長につながった生徒が65%以上		
					1 保護者や地域の方などとの交流を進め、生徒の成長につなげた教員が80%未満		1 地域の方と交流を行い、自分の成長につながった生徒が65%未満		
いのち	豊かな人間性の育成	地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る。	・学校危機管理マニュアルを精査するとともに、避難訓練を工夫して、自分のことを守る力を育成する。また、地域の方と連携した防災訓練を企画し、地域の方を助ける力を育成する。	2	4 避難訓練などの取組を通して、生徒の自助・共助の意識を高めた教員が90%以上	2	4 避難訓練などの取組を通して、生徒の自助・共助の意識が高まった生徒が95%以上	・自助・共助の意識を高めていきたいですね。 ・「地域の方と連携した防災訓練」とは具体的にどのように実施したのですか？ ・地域と連携した防災訓練はぜひやってください。 ・校内でのことは不明。自治会での総合防災訓練等に参加していただけると良いのでは。有事での避難所支援は、中学生の力は大変役に立ちます。	今年度の避難訓練では、休み時間や放課後に実施し、各自で判断して動く訓練を多く実施した。小中合同での引き取り訓練を実施したが、地域の方との協働での避難訓練は生徒数も多く実施できていない。中学生がいざというときにどのように行動したらよいのかを小中合同訓練などで伝える機会を模索したい。
					3 避難訓練などの取組を通して、生徒の自助・共助の意識を高めた教員が85%以上		3 保護者81.7%が取り組んだ生徒が90%以上		
					2 避難訓練などの取組を通して、生徒の自助・共助の意識を高めた教員が80%以上		2 避難訓練などの取組を通して、自助・共助の意識が高まった生徒が85%以上		
					1 避難訓練などの取組を通して、生徒の自助・共助の意識を高めた教員が80%未満		1 避難訓練などの取組を通して、自助・共助の意識が高まった生徒が85%未満		
安全・安心	安全・安心の推進	不登校傾向等のある生徒等に対し、個に応じた支援を充実する。	・特別支援教育コーディネーターを中心に学校相談委員会を毎週開催し、教室に入れない生徒等に対して登校支援教室を充実させる。 ・ステップ教室・リソース教室を活用した別室学習支援や保	3	4 個別の学習やスクールカウンセラーなどの連携を行い、支援の充実をした教員が90%以上	3	4 ステップ教室や保健室等の相談など、個別の支援が充実していると感じた生徒が85%以上	・不登校傾向等のある生徒は日野市だけでなく、全国的に見ても増加傾向です。個に応じた対応・支援を充実させたいですね。 ・以前、不登校の子とお話をしたことがあります。不登校になっている状況が本人にも不明だと話していました。（誰が、何が、特定できない）現在も行われていると思いますが、支援教室などでカウンセラーにとにかくお話を聞いてもらうことが大事だと思います。自分を見つめなおせると、立ち止まっているところから、前向きな行動に移せるのではないかと思います。希望があればカウンセラーの派遣などあるといいですね。 ・不登校傾向等のある生徒に対する支援が手厚いと感じました。今後も、登校支援教室等の手立てが充実していくことを願っています。 ・登校支援教室に来る生徒が少しずつ増えているのは、効果が出てきていると思う。その反面、一度も学校に来れない生徒がどんな日常を過ごしているのか気になる。	教育相談部会を毎週開催した。SC、SSWとも連携を図った。校内別室支援員を配置し、登校支援教室を週2回に増やした。入室生徒が増え、教室に入れるようになった生徒も2・3名おり、成果があった。来年度はさら
					3 個別の学習やスクールカウンセラーなどの連携を行い、支援の充実をした教員が85%以上		3 ステップ教室や保健室等の相談など、個別の支援が充実していると感じた生徒が80%以上		
					2 個別の学習やスクールカウンセラーなどの連携を行い、支援の充実をした教員が80%以上		2 保護者73.2%が取り組んだ生徒が75%以上		
					1 個別の学習やスクールカウンセラーなどの連携を行い、支援の充実をした教員が80%未満		1 ステップ教室や保健室等の相談など、個別の支援が充実していると感じた生徒が70%未満		
安全・安心	安全・安心の推進	いじめの防止・早期発見・早期解決を図る。	・学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの防止・早期発見・早期解決を図るとともに、生徒自らが、いじめを絶対に許さない環境を醸成する活動を推進する。	3	4 「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている教員が95%以上	1	4 先生方は「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じていると感じた生徒が95%以上	・どの学校にもいじめがあり、いじめの防止・早期発見・早期解決を図る必要があります。生徒及び保護者とも成果指標が1なのは気になります。 ・「生徒自らが、いじめを絶対に許さない環境を醸成する活動」とは、具体的にどのような活動ですか？ ・いじめを早期に先生方が見つけることは難しいことだと思います。子ども達の勇気ある一言を受け止めるために目安箱みだいな「みんなの心の声ボックス」などを子ども達と一緒に用意するのはどうでしょう。 ・いじめについては早期発見が重要だと思う。いじめられた方は、一生忘れられない傷を負う。校内での対処は取り組まれていると思うので、これからも生徒の安全・安心を守ってください。 ・小中交流会を見ていた中では、参加していた全生徒の活動にいじめ等は全くなかったので、しっかり指導されていると感じました。	毎月の生活アンケート実施や、生徒相談フォームの活用により、常時生徒が相談できる環境を設けた。いじめでは配慮に欠けた発言が多いことから、学校全体でソーシャルスキルトレーニングを行い対人関係技能の向上を図った。接遇や生徒対応の研修を行ったが親身な対応について、教員と生徒の乖離がある。研修を継続し改善を進めていく。
					3 「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている教員が90%以上		3 先生方は「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じていると感じた生徒が90%以上		
					2 「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている教員が85%以上		2 先生方は「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じていると感じた生徒が85%以上		
					1 「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている教員が85%未満		1 先生方は「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じていると感じた生徒が85%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。